

溺れた利用者を浴槽から出そうとして何度も溺水

—職員独りで溺れた利用者を引き上げるのは困難—

■一人で対応する時の方法は？

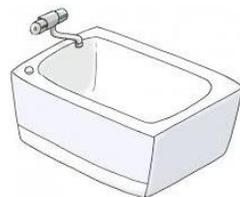
Mさん(58歳・男性)は、身体に軽度の障がいがある知的障がいの利用者です。定員9人の小さなデイサービスを週2日利用しています。ある時、いつも浴槽でゆっくり浸かっていましたが、「もう時間ですよ」とスタッフに急かされたため、浴槽の中で立ち上がろうとしました。その時突然ふらついて転倒し、浴槽のお湯に頭まで浸かってしまいました。

そばに居た職員は慌ててMさんを抱きかかえて、浴槽から引っ張り上げようとしたのですが、手が滑ってMさんは再び浴槽に落ちて潜ってしまいました。パニックになった職員はもう一度引っ張り上げようとしたのですが、再びMさんを落としてしまい、浴槽から上げることができませんでした。Mさんは大量の水が肺に入り、呼吸停止となり救急搬送されました。

お湯から頭を浮かせて呼吸を確保して助けを呼ぶ

■職員1人では利用者の身体を浴槽から引き上げられない

安全な一人浴槽であっても、浴槽の中でふらついたりふとした拍子にバランスを崩すことがあるかもしれません。浴槽で転倒してお湯に顔が浸かり、パニックになった時、お湯を飲んで自分で起き上がれなくなります。では、こんな状況が目の前で起こった時、介護職員はどのように対応すれば良いのでしょうか？



普通は溺れた人を一刻も早く助け出そうとして、身体を浴槽から引き出そうとからだを引っ張り上げてしまいます。しかし、溺れている人は裸で身体が濡れていますので、体重の軽い人でも簡単に身体を引っ張り上げることはかなり難しいのです。体重の重い人ならなおさらです。こうした無理をすると結果的に手が滑るなどして、再びお湯の中に利用者を落としてしまいます。これを何度も繰り返せば本事例のように、重大事故につながります。

■頭を浮かせて呼吸を確保し助けを呼ぶ

浴槽内で溺れた人の身体を引っ張り上げてはいけません。溺れた人を助ける時には、まず呼吸を確保しなければならず、「頭をお湯から上げて浮かせた状態にして呼吸を確保してそのまま助けを呼ぶ」というのが正しい対応です。しかし、本人は気管にお湯が侵入して苦しく恐怖でパニックを起こしていることがあり、ほとんどのケースで暴れてしまいますので、この対応はやさしくありません。

大きな浴槽であれば、職員が浴槽に飛び込んで左手で上半身を抱きかかえて、右手で頭を後ろから支えて水面から上げて呼吸を確保できますが、小さな浴槽では中に入ることはできません。浴槽の外から身体を押さえつけて頭を水面上に保持するのは、難しいかもしれません。場合によっては、利用者の頭を両手で強く持って、浴槽の縁に置いて身体には触れないほうが良いかもしれません。

いずれにしても、呼吸の確保が最優先であって、事故発見者はそこまでしか一人ではできません。身体を浴槽から引き上げるのは、助けを呼んでその後にはしなければなりません。無理に浴槽から引き上げて、そのまま床に頭から真逆さまに転落させたら命にかかわる事故につながります。

このような溺水者に対する適切な対応がすぐにできるのは、ライフセーバーの免許を持った人など一部の限られた人であるため、事業者はマニュアル化していなければ誰もが適切に対応することは難しいのです。

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発部 市場開発室
担当 堀江・佐伯 TEL 03-5789-6456

担当課支社・代理店

株式会社福祉施設共済会
東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSTビル
電話03-5466-0881 FAX03-5466-0882